

Minoshima Syoutengai

美野島商店街

博多区美野島1~4丁目・住吉4、5丁目

●代表者/みのしま連合商店街振興組合

●概要/店舗数108店舗 (平成14年、小売業のみ)

普通の商店街とひと味違うのは、空間の「密度」である。密度といっても、店舗が豊富でただ賑わっているというだけではない。商品が空間に美しくディスプレイされ、客の視線がハッと釘づけになる。自然に店の奥へと引き込まれていく。客と商品との出会いは、いわばひと目惚れの関係となり、買ってこれと言う前に売れる。もちろん対面販売の安心感が、無形の商品力となっているわけだが、どの店も商品陳列のかたちには洗練があり、京都錦市場を連想する美学が見て取れる。街並みには売り手と買い手で創った独特の文化が流れ、その風景には歴史を刻むかどや食堂の姿が佇む。いまさ「スローフード」と言うまでもなく、このまちでは献立選びに頭を悩ませることもなからうと、想像してしまう。

(審査委員 落合 太郎)



一般表彰

THE 18th FUKUOKA URBAN BEAUTIFICATION AWARD



YUSENTEI GARDEN

友泉亭公園

城南区友泉亭1-46

●用途/公園

●完成年月/1981(昭和56)年4月(開園)

●所有者/福岡市(都市整備局)



いつの頃からか日本庭園は塀に囲まれ、中では家人が密かに池の鯉を楽しみ、一般庶民が垣間見ることが出来ない閉鎖的空間というイメージが広がった。勿論プライバシーは尊重されるべきであろうが、本当にイメージ通りだろうか。否！日本庭園には素材の形そのものだけでなく、形の持つ氣勢を生かす工夫や知恵が組み込まれている。空に伸び、地に潜り、横に這う力、目には見えないいわば影響圏のようなものが、石の据え方や、植物の植え方や全体構成にも巧みに応用され、日本庭園の素材や

構成の氣勢はむしろ外へ向かう面を持ち合わせている。見越しの松や、亭々としたカシの木の生け垣は庭園にありながら地域住民や行き交う人々の目を楽しませてくれる。また借景やしじまをわたる鹿脅し(僧都)の響きは庭外の環境と無縁ではない。池泉回遊式庭園は生態系などの難しさにとらわれない立派なジオトープであり、友泉亭公園は福岡市の風景作りに充分貢献している。

(審査委員 岡本 均)